

「真心をつくす」

国際ロータリー第 2750 地区 多摩中グループ

東京昭島中央ロータリークラブ

TOKYO AKISHIMA-CHUO ROTARY CLUB.



2014 年(平成 26 年)9 月 17 日(水)
第 1198 回 例会報告

事務局 〒196-0034 東京都昭島市玉川町 3-10-1 ヒルパークハイツ 1F TEL 042-544-1001 FAX 042-544-1002

●本日の司会 (志賀 義任副 SAA)

●開会点鐘 (伊藤 満雄会長)

●ロータリーソング「我らの生業」斉唱

●本日のお客様



RI2750 地区青少年奉仕委員会・青少年交換小委員会
田村 重己様 (東京狛江ロータリークラブ)

ローテックス 村上 菜穂様

米山奨学生 レ ホアン アンさん

●会長の時間 (伊藤 満雄会長)



最近問題になっている「いじめとしごき」はどう違うかということですが、私は 20 年前まで警視庁で約 30 年間柔道を指導してきました。

8 時半からの勤務のところ、私は 6 時半ころ寮へ行き、皆を叩き起こすのですが、初めは押入れなどに逃げるわけです。それが見つかり、風呂に蓋をして隠れたり非常階段の手すりにぶら下がっていたりするので。それを見つけ出して、朝からしごいていたわけですが、当時の若い連中は、先生、どうして私だけいじめるのですかと言いますが、君達は強いのだと言います。私は高校を出て、柔道は素人で警視庁に入って、最初の 3 ヶ月間は濡れぞうきんのように投げられました。とにかく悔しくて悔しくて、それでも一番弱かった自分が指導者になっているのだから、君達は、中学でも高校でも柔道をやってここにきているのだから強くなるのだと言いました。そのような意味で、いじめではなく、しごきです。20 年 30 年先を見たときに、必ず仕事に生きて

くると思い、自信を持ってしごいてきました。そこに愛情があるかどうかです。武道をやっている方は、いじめかしごきかというのは分かります。愛情を持ったしごきは良いと思います。

ここ 2、3 年、柔道連盟が新聞を賑わしております。どの団体にも勢力争いがあるものです。柔道の場合には 40 年くらい前に、東海大学を創った松前先生が、日本柔道連盟の会長になることが大方決まっていたところ、色々な大学の流派で水面下の葛藤があり、日本に足を引っ張られて会長になることが出来ませんでした。それが尾を引いて今日のあのような騒動になりました。理事の金の使い方がどうだとか、痛くもない腹を探られてガタガタになりましたが、ようやく今回、世界選手権も立て直ってきました。

非常に厳しい練習をしているのを、いじめと見るか、しごきと見るか、その本質を新聞などのマスコミにミスリードされないで、その根底を見ることが大切だと思います。

●幹事報告 (小島 弘明幹事)

9 月 16 日(火) 第 4 回多摩中グループ協議会に、会長と幹事で参加をしましてまいりました。9 月 18 日(木) 青少年委員会の炉辺会議を開催いたします。

●卓話「物乞いに応えることを徳とする国、タイ王国」 ローテックス 村上 菜穂様



皆様こんにちは、国際ロータリー第 2750 地区東京八王子北ロータリークラブにスポンサーしていただき、第 3350 地区プラナコーンクラブにホストしていただきまして、2011-12 年度タイ王国に派遣していただきました、現在上智大学短期大学部 2 年の村上菜穂と申します。本日は、昭島中央 RC 様の例会にお招きいただきましてありがとうございます。恐縮ながら、ローテックス (以下 RTX) として卓話をさせていただきます。はじめに、自己紹介を含めまして、RTX 活動の紹介をさせていただきます、つぎに、私がタイで抱いた「物乞いに応えることの是非」という問いかけを提起します。そして、現地で私がみてきたもの、耳にしてきたものから物乞いをする人々について考えていきたいと思います。

【自己紹介】

私は、青少年交換プログラムの「現地で友好の輪をひろげ、未来の世界平和に貢献する」という方針に感銘を

受け、プログラム参加を志望しました。多くの人は、自分にとって大切な人がいる国に核ミサイルを撃ち込もうとしないでしょう。派遣生活中、異文化を理解しようとするうえで難しさ、面白さ、重要さを認識できました。また対話に必要な語学力も身につけられたと実感しています。

現在は学生をしながら RTX 活動をしています。RTX とは、派遣先から帰国した人たちを指します。RTX は、自分の地区（私の場合ですと 2750 地区）で派遣生活を控える学生と派遣生活中の来日生を対象とするオリエンテーションの企画・運営を青少年交換委員方のご指導のもと行います。また、ローテックスが派遣候補生の留学準備を手伝ったり、来日生の日本での生活をサポートしたりします。

【タイで抱いた問いかけ】

派遣生活中、通年、印象強かったことが物乞いをする人の多さ、世代層のひろさでした。通学中に物乞いをする人々を見るような日々でしたので、私にとって物乞いに応えるべきか否かという問いかけは身近なものでした。私がタイで耳にした情報によると、物乞いはビジネス化されているといえます。ラクして稼ぎたいがために個人単位で乞う方法や、雇用者と労働者の協同によって乞う方法があるといえます。今回は後者を「物乞いビジネス」と定義づけたいと思います。「物乞いビジネス」とは、雇用者が労働者を定位置に連れていき、1日物乞いをさせて稼いだお金を搾取し、労働者には生きるのにギリギリなだけの食事と環境を与えるというものだそうです。実際に私がみていた物乞いの仕方も様々ありました。血縁のない女性と赤ちゃんのペアを組ませ「恵まれない親子」を演じさせる方法、スピーカーを首からさげて歌を歌わされ「恵まれない知的障害者」を演じさせる方法、路上を這わせ「恵まれない身体障害者」を演じさせる方法など。

【物乞いビジネスについて明らかになったこと】

タイで物乞いがなくなる理由として、温暖な気候、寺の食事提供、タイ人の信心、物乞いビジネスの存在が背景にあることがわかりました。また、障がい者に対する社会制度の理解が普及していないこともその理由にあることがわかりました。物乞いをする人のなかに、障がいを抱える人たちがいました。タイでは、上座部仏教の教えに基づき（信仰率：国民の 95%以上）、障がいは前世の悪行の結果として捉えられているようです。こうした障がい理解から、身体・精神の障がいをもつ人は、障がいを恥じる家族によってひた隠しにされるか、過保護に扱われるといえます。さらに、多くのタイ人は上座部仏教の教えとして施しをすることで自分が徳を積み、善行を積み、より良き来世を迎えることを期待する傾向にあるそうです。これを利用したのが「物乞いビジネス」といえるでしょう。私は「物乞いビジネス」について、可視的な憐れみを「障害」というかたちで表現し、功德を売る、そんな商売だと理解するようになりました。

【派遣していただいた1年間をふまえて】

とくに先にあげた「知的障害者」や「身体障害者」を目の当たりにする瞬間の方が、その「親子」よりも私の感情を揺すりました。その理由は、歌ったり這ったり「させられている」としても、(少なくともその瞬間だけは、)彼らは能動的に自分の意志で歌をうたったり、路上を這ったりしているように感じられるためです。つまり、単なる動作のみならず、彼らの「生きようとする力」を感じられたために、彼らはもっと生き生きと人生を謳歌で

きるはずなのだという理想と、そうではなさそうな現実のギャップに感情の振子が動いたと、私は今になって感情の整理ができました。もちろん、物乞いビジネスの労働者として働くことが彼らにとって残酷なことだと断言することはできませんが、灼熱のタイのアスファルト上で俯き、乞うあの男性（私が通学中、目にしていた両足のない男性）の表情から、ついそう判断してしまいます。以上の経験から、私は将来より多くの人々が各々の「生きようとする力」を最大限に発揮できるような生活に貢献したいと考えるようになりました。これが契機になり、現在は心身のリハビリテーションに携わる作業療法士になることを目標に勉学に励んでおります。このように考える機会と出会いを与えてくださった国際ロータリーには大変感謝しています。お聞き苦しい点が多々あったことと思いますが、ご清聴頂きまして、また卓話の機会を与えていただきまして大変にありがとうございました。

★謝辞（今藤 貫徳会長エレクト）

貴重な体験と、それを自分の心の中で上手く融合させて、私達の年代が忘れかけている心をお伝えいただきまして、ありがとうございました。立場や年齢で、考え方を決めつけてきてしまいがちですが、柔軟に色々なものに向かっていきたいと思えます。

●ニコニコ BOX 発表（石岡 孝光親睦委員長）

- ◎伊藤会長 村上様、本日の卓話ありがとうございます。今後のご活躍を祈ります。
- ・小島幹事 村上様、田村様、本日はありがとうございます。

●出席報告（工藤 開光出席委員長）

会員数 45名 出席義務会員 43名
本日の出席 26名（メイクによる出席者数を除く）

●委員会報告

★鈴木 栄国際奉仕副委員長

9月21日（日）車椅子の整備がごさいますが、まだ、出欠の返事を出されていない方は、お早目をお願いいたします。

★志賀 義任社会奉仕委員長

広島豪雨災害募金には、たくさんのご協力をいただきありがとうございます。集まった募金は、ガバナー事務所宛てに送金をいたしまして、ガバナー事務所から R12710 地区の事務所へ送るとい形を取るようになっております。

●次週例会予定（佐藤 義弘プログラム委員長）

9月24日（水）「米山奨学事業について」
米山記念奨学会 武本 泰子様

●閉会点鐘（伊藤 満雄会長）